

令和8年2月25日  
教育長答弁実録  
(教育委員会)

(問) 学力の低下への対応について

子供たちの更なる能力の向上を促すため、改めてデジタルの教科書の導入など、デジタル技術を活用した教育のあり方を見直すべきだと考えるが、教育長の所見を伺う。

また、教育の場におけるデジタル技術の活用について「どの場面で、どの程度、どのように使うべきか」を検討する必要があると考えるが、併せて教育長の所見を伺う。

(答)

教育におけるデジタル技術の活用につきましては、デジタルかアナログかといった二項対立に陥ることなく、それぞれの良さを生かしつつ、発達段階や児童生徒の実態を考慮して取り入れることが重要であると考えております。

具体的には、紙などのアナログ教材の良さとしたしましては、

- ・ 一覧性があり、全体構造が把握しやすいことや、
- ・ 書く作業によって記憶や理解が深まること、
- ・ 体験的な活動が非認知能力を高めること

などがある一方で、

デジタルの良さとしたしましては、

- ・ 一度に多くの情報量を扱えることや、
- ・ 情報共有や共同編集などによる協働的な学習がしやすいこと、
- ・ 動画や音声による学習サポートが得られること、
- ・ 障害のある児童生徒のアクセシビリティが向上すること

などがあると考えております。

デジタルを活用した教育の効果としたしましては、令和6年度全国学力・学習状況調査におきましても、

- ・ ICT機器を活用し、主体的・対話的で深い学びに取り組むほど、各教科の平均正答率が高い結果となっているほか、
- ・ ICT機器を活用している児童生徒の約9割が、「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」など、効果を実感している状況にあり、児童生徒自らが「深く考える力」を身に付け、協力しながら学ぶ力を高め

るよう、児童生徒の実態に応じて、デジタル技術を効果的に活用してまいりたいと考えております。

教育委員会といたしましては、現在、国におきまして、デジタル教科書の導入も含め、デジタル技術を活用した学びの在り方について議論が進められているところであり、その動向を注視しつつ、探究学習などの場面におきまして、リアルな体験とのバランスを取りながら、発達段階に応じてICT機器を効果的に活用し、「深く考える力」や「問いを立てる力」など、これからの社会を生き抜く資質・能力の育成に努めてまいります。